

1 単元名 「曲がりとはらい」 ～つり～

2 単元目標

- 「曲がり」や「はらい」の筆使いを理解し、字形を整えて丁寧に「つり」を書くことができる。
- 友だちと学び合いながら、進んで学習に取り組み、日常生活の中で丁寧に文字を書く意識をもつことができる。

3 指導計画（全3時間）

第1時 「曲がり」の筆使いを理解し、「つ」を丁寧に書く。（本時）

第2時 「はらい」の筆使いを理解し、「り」を丁寧に書く。

第3時 ひらがなの筆使いを正しく理解し、字形を意識して整った文字を書く。

4 指導上の立場

○単元について

本単元は、3年生の毛筆で初めてのひらがなの学習であり、「曲がり」と「はらい」の筆使いを理解して書くことをねらいとしている。ここでは「つり」を題材として、特に「つ」の学習に焦点をおき、「曲がり」における穂先の通り道についてつかませる。始筆から送筆に向かって筆圧を弱めながらだんだんと穂先が縦の向きになるように意識し、最後は左下の方向に穂先を払うことをつかませる。この筆使いは、漢字とは違うひらがな特有の柔らかさを出すためにも既習の筆使いとは違うことをつかませやすくするために、特に穂先の向きと大きさに重点を置く。そうすることで、自然に筆圧や腕の動きについても意識することができるようにしたい。

毛筆の入門期に基本点画を正確に書くという意識を育てることで、日常生活の様々な場面で文字を書く楽しさや丁寧に書くことの良さ、手書きの良さに気づくことができるようにつなげたい。

○児童の実態

本学級の児童は、毛筆の使い方についても慣れはじめ、どの児童も興味をもって学習に取り組むことができる。既習の「横画」「縦画」「おれ」などの学習では、めあてをつかむことができるようになってきた。

しかし、授業の終末には、書き上がった文字や字形について着目しがちで、清書のみを学習成果としてとらえやすく、書いている過程で気づいた文字を書く動作や、自分自身の伸びなどに気づくことがまだ十分ではない。そこで、試し書きとまとめ書きを比べる時には、自分の字だけでなく友だちの伸びにも気づき、共感し合うことができるようにしたいと考えている。

ひらがなの「曲がり」については、1・2年の硬筆で基本的な学習をしているが、普段使っているノートや連絡帳などに書かれている字を見ても、速さにとられ字形が乱れがちになったり、ひらがなだからと言って特に意識せず書いたりしている児童もいる。書写の授業を通して学んだことを意識し、継続して日常生活に活かせるように、普段のノートに文字を書く際に「ひらがな」についてふれたり、掲示物や学習環境を整えたりするなどしていきたい。

5 研究主題とのかかわり

本時では『「つ」』というひらがなにじっくりと向き合い、課題をみつける」姿や「練習過程で気づいた自分自身の伸びや友だちの伸びに気づいたり、自分とは違ったよさを感じ合ったりする」姿を共に学び合う姿と捉え、以下のような手立てを考えている。

ワークシートの活用

児童が主体的に活動に取り組むことができるようにするために、書写指導の基本としてワークシートを活用する。

前半・・・試し書きの後に、参考手本と比べて上手に書けた部分やまだ直したい部分について、シールを貼ることで、児童が「曲がり」について意識し、「つ」を書く時の基準について気づきやすくする。また、鉛筆で思いを書き込むことで、「上手に書きたい。」「丁寧に書きたい。」といった児童の思いを自己の課題につなげることができるようにする。

後半・・・まとめ書きの際に、友だちの試し書きのワークシートを見ながら、書いている様子を見合うことで、技能中心の学習ばかりではなく、お互いのがんばりを認め合うことができたり、授業を通して気づいた文字を書く際のポイントなどを確かめ合うことができるようにする。

常時・・・ワークシートは毎時間同じ形式の物を使うことで、学習活動の定着を図りやすくする。学習後は、試し書きとまとめ書きを並列に掲示し、学習過程での自分や友だちの伸びやがんばりを視覚的に確かめたり、次時の学習に意欲的に取り組んだりすることができるようにする。

練習方法や場の構成

骨文字・籠文字・穂先の向きが書かれている用紙などや水書コーナー、二色筆コーナー、デジタル運筆動画などを用意することで、今までの経験から練習方法を自ら選び、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

穂先くん

(穂先のペープサート)

筆の軸の扱い、腕の動き方、筆圧など書く際に意識するポイントが多数あるが、本時は毛筆の初期段階であることを考慮し、毎時間穂先に注目し、穂先の絵が描かれたペープサートを活用することで、価値を一般化し、意識を継続しやすくする。そうすることで、上記のポイントにも必然的に気づくことができるようにする。

6 本時案（第1時）

目標	「曲がり」の筆使いを理解し、丁寧に書くことができる。
学習活動	教師の支援
1 試し書きをする。	○ 掲示物により姿勢・筆の持ち方を確認し、意識して学習に取り組むことができるようにする。 ○ 何も見ないで試し書きをした後、参考手本と比べて自分の字の上手に書けた部分やまだ直したい部分について、ワークシートにシールを貼ったり、思いを書き込んだりすることで、自分の課題に気づきやすくする。 上手に書けた部分…ピンク まだ直したい部分…青
2 基準をつかみ、めあてをみつける。	○ 穂先のペープサートを用意したり、二色筆や水書板による教師の筆使いを見たりすることで、穂先の向きと通り道と大きさについて確認することができるようにする。
ほ先の向きに気をつけて、「つ」をていねいに書こう。	
3 練習をする。	○ 複数の練習用紙や自分のめあてに合った練習方法や場を準備することで、児童が意欲的に練習に取り組むことができるようにする。 ・骨文字・籠文字・始筆を点で示した用紙 ・穂先の向きが書かれている用紙・はらいが多数書かれている用紙 ・中心線と始筆が書かれている用紙・水書コーナー・二色筆コーナー ・運筆動画を見るコーナー・点画ピースを作るコーナー
4 まとめ書きをする。	友だちと ○ 隣の席の友だちと書いている様子を見合う時間「ほめほめタイム」をとることで友だちのワークシートを見ながら、友だちの伸びやがんばりに気づき、伝え合うことでお互いを認め合うことができるようにする。 自分で ○ 2種類のワークシートを比較することを通して、試し書きとまとめ書きのワークシートを比べてよくなったところを見つけ、自己の伸びを確認することができるようにする。
5 ふり返る。	○ 本時の感想を発表することで、お互いの伸びに気づき、今後の学習に活かすことができるようにする。
評価	「曲がり」の筆使いを正しく理解し、穂先の向きや通り道に気をつけて丁寧に書くことができる。

